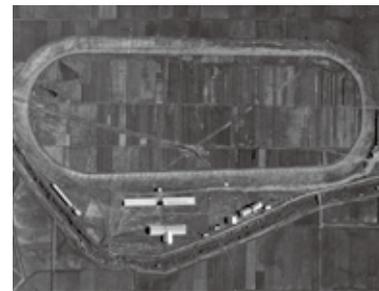


福井競馬場跡

(戦後の復興に財政面で貢献)



福井競馬場でのレース風景、後背のスタンドは満席になっていることがわかる



空から見たかつての競馬場 [竣工間もない昭和23年頃] (資料：国土地理院)



かつての競馬場の中央部付近



出場騎手と競走馬

福井県で最初の競馬は、大正14年、小舟渡の九頭竜川河川敷の草競馬とされている。まもなく大野の篠座に大野競馬場が設立されている。その後昭和に入って、福井の近郊東安居村水越河川地籍に簡易競馬場が設立されたが、交通が不便なため、昭和6年には市内下北野に約3万坪に及ぶ競馬場が設営された。このころ関西、北陸の各地からすぐれた競走馬の参加もあり、関心も高まり次第に盛況となった。

しかし、昭和12年日華事変が勃発し、次第に戦局が拡大し、全国的に競馬は中止へと追い込まれた。終戦後の福井市では、財源の確保を名目に地方競馬の開催を計画し、あらたに福井市境町に約4万坪の敷地を借り受け、福井競馬場の新設を計画した。現在の文京6丁目と7丁目の南側の底喰川沿いにあたる。ちょうど河道が婉曲する地域一帯で、当時は農地がひろがっていた。昭和22年3月に、農林省の内諾を得たので、同月31日から敷地造成に着手、途中で農地改革問題とからんで一時中断したものの、関係者の尽力で工事は急ピッチで進められ、10月末に完成。また運営機関として福井競馬協力会も発足した。

競馬場の敷地は総面積が約4万坪、走路は一周1、100mあり、スタンドはA・Bの2棟で2、000人を収容でき、その下には売店も設けられていた。他に事務所、入場券発売所、厩舎4棟、審判所、検査所などの施設が整備された。工事完了に伴い、11月に第1回の競馬を開催した。1日から4日間の開催だった。競馬場の竣工式は開催日の前日に執り行われ、50頭の馬が市内をパレードし、前景気を煽った。久しぶりの競馬にくわえ、敗戦後の沈滞した世相の中で娯楽が少ない時期だっただけに、開幕早々市民や愛好家が殺到し大盛況であった。

昭和23年7月には地方競馬法が公布され、地方競馬は、都道府県又は「著しく災害を受けた」指定市町村以外の者は開催できないこととされ、戦災復興のための財源確保の色彩がより濃いものとなった。これ以降、競馬は県営競馬、市営競馬として実施されることとなり、益金は一般会計に繰入れられ財政に貢献。当初は大変賑わった競馬であったが、その運営は長くは続かなかつた。戦後の復興が進み、レジャーが多様化し、さらに福井市では競輪事業もはじまると観客は減少、底喰川流域での排水問題や、施設維持費も高み、次第に事業は振るわなくなり、昭和37年度で廃止されるに至った。

(文 奥山秀範)